

「働くこと・学ぶこと・生きること」

～飯田市キャリア教育推進フォーラム～

1月23日の「飯田市キャリア教育推進フォーラム」は、約200人の皆さんにお集まりいただき、盛大に行われました。

○「結いジュニアリーダー」たちが活躍

午前10時。主役となる「結いジュニアリーダー」たちは、家族に送られて松尾公民館に集まってきました。十分な準備ができないままに迎えた本番当日。それぞれ緊張の面持ちで会場準備やリハーサルに臨む姿から、私たちスタッフにも緊張感が伝わってきます。



午後1時。準備、リハーサルも終わり、リーダーたちは、会場入り口で参加者の皆様をお迎えしました。一人ひとりのお客様に「こんにちは！」と大きな声であいさつをし、受付のお客様の誘導を行いました。

会場が7割程度埋まってきた1時30分、いよいよキャリア教育推進フォーラムの開会です。司会は、飯田西中学校の横田君と旭ヶ丘中学校の渋谷さんです。

「これから、飯田市教育?!・・・フォーラムを開会します」

“トチリ”からのスタートが、なんと中学生らしく、新鮮で、微笑ましい光景でした。

○「結いジュニアリーダー」の取り組み

最初の「結いジュニアリーダー育成講座」の取り組みの紹介では、鼎中学校の松村君が、この講座で体験した農業宿泊体験を中心に、体験内容とその体験から学んだことについて発表しました。

松村君は、酪農の体験を通じて、農家の方がお客さ

んにおいしいと言ってもらえる牛乳をめざしていることや、牛乳になるまでにいろんな仕事や農家の方の苦勞があることを感じ、

「僕にとって働くとは、目的に向かって困難や苦勞を乗り越え、それが人の役に立ち、自分の成長につながることで」と発表しました。

○「私の職場体験」

続いて、各学校で実施した「私の職場体験」について発表です。伊賀良保育園で体験させていただいた旭ヶ丘中学校の渋谷さんは、

「保育士さんたちは、いつも元気で、明るくて、優しく、にこにこしていました。保育士さんたちも体調が悪いときやいやな気持ちのときもあると思いますが、子どもたちの前ではスイッチを入れ替えているんだということが勉強になりました」

体調を崩し、残念ながらこの日出席できなかった竜崎中学校の伊藤君の発表は、飯田西中学校の横田君が代理で発表を勤めました。

「アピタ飯田店で体験させていただき、普段僕たちの見えないところで、みんなのために働いてくれている人がいることがわかり、そのことを忘れないでいたいと思いました」

ロータリー自動車(株)で体験させていただいた高陵中学校の北原君は、

「周りが動いたから動くのではなく、自分から先を考えて動かなければいけないことを学びました」

中部電力(株)飯田営業所でお世話になった緑ヶ丘中学校の今村君は、

「3日間の体験を通じて、あいさつが積極的にできるようになったことと、自己中心的にならず周りのことを考えて行動できるようになりました」と、自らの成長を分析しました。

4人のリーダーが、共通して主張していたことは、「働くとは、お金を稼いだり、楽しんだり、自分のためにやることではあるけれど、それが周りの人たちの喜びにつながっていくことが大切だと感じました」ということです。

この職場体験は、リーダーたちにとって、一人ひとり働くことの意味について考えを深め、自分の将来をみつめる貴重な機会になったようです。

『中学校・地域の特色ある取り組み』

竜東中・飯田東中・遠山霜月祭の発表

○「学校の特色あるキャリア教育の取り組み」

竜東中学校の三石さんは、2年生全員で見学に向ったシチスン平和時計(株)龍江工場の発表です。従業員の皆さんへのインタビューや、廊下の壁などに貼ってある貼紙を見て学んだことについて、

「従業員の方の“働くことはきれいごとではない”という言葉や、“努力と工夫でこつこつ改善、品質にこだわる探究心”という貼紙を見て、改善のための努力を怠らないことや仲間と働くことの大切さを学び、そして自らの職場体験に臨みました。私にとって働くとは、“今の自分を見て、改善して、成功・向上につなげること”“仲間、周りのみんなと協力して、社会を作ること”だと考えました」と発表がありました。

飯田東中学校の黒澤君からは、伝統ある「りんご並木」の活動について発表がありました。

「1947年の飯田の大火からの復興を願って作られたりんご並木の取り組みは、約60年にわたって受け継がれてきたもので、先輩方の苦勞と多くの地域の皆さんの支えがあって続いてきています。この活動は、“やらされている活動”ではなく“自分からやる活動”になっており、これが東中の伝統だと思います」



司会を務めている飯田西中学校の横田君からは、飯田市内でも先駆的な取り組みをしている西中のキャリア教育について発表がありました。

「1年生は農業体験、3年生は林業体験、そして2年生は5日間の職場体験をしています。僕は、文吾林造園(株)で5日間の職場体験をさせていただきました。2日目までは慣れない仕事の連続でしたが、3日目になると、行動に少し余裕が生まれた気がします。4日目は、常に作業が終わったら次にどのようなことをすればよいか考えて行動でき、職場の方に認めていただきました。最終日は、自分が一人の従業員としての心を持ち、責任を持ってやろうと臨みました」

この日参加できなかったメンバーの一人、飯田西中学校の寺平さんは、仏教保育園での体験から、

「働かって、自分も満足感が持てるのが大切だと思います。最後に別れが寂しくなる仕事って素敵だ」と言っていたそうです。

こうした体験を通して、3人のリーダーたちは、

「自分がやり遂げた喜び」「周りの方に認められた喜び」「お客さんに喜ばれたうれしさ」を感じ、感動を味わったようです。3人の体験は、これから学校の生徒会を担う2年生にとって、とても意義深いものとなったと思います。

○「地域の特色あるキャリア教育の取り組み」

前半最後は、遠山中学校の近藤君から、「地域におけるキャリア教育の取り組み」として、遠山霜月祭の紹介と昨年末で結成された“下栗拾五楽坊”の皆さんとの関わりについて発表がありました。

「僕は、南信濃の和田地区に住んでいます。昨年、拾五楽坊の皆さんから「下栗の舞いを舞ってみませんか」とのお誘いが遠山中学校にありました。下栗地区は、高齢化が進み、祭で舞う人たちが少なくなっています。僕たちが参加することで、地域の人たちが元気になってくれたらと願い、参加することに決めました。練習は、本番に向けて夜間練習を5回行いました。祭り当日は、大勢の参観者の前で無心になって舞いました。舞いながら、千年もの間変わることなく受け継がれてきた伝統の尊さ、昔の人たちが厳しい自然の中で一生懸命生きてきた暮らしぶり、神を尊ぶ精神までも感じ取ることができたように思います。そして、僕も、この地で生きる一人であり、後継者であることを自覚しました」

熱のこもった発表の後、会場に駆けつけてくださった“下栗拾五楽坊”の皆さんをはじめ、遠山中の生徒、先生方と霜月祭の舞を披露してくださいました。

近藤君たちが、下栗の祭に参加したことは、地域の皆さんに元気を与えたことと思います。同時に、近藤君たちも地域の皆さんから元気をいただいたことでしょう。

近藤君の発表と霜月祭の舞を見て、学校と地域の方々とのつながりを深く実感させられました。



『何のために働くの？』

ウエジョビ 比田井和孝先生 講演会

○「働くことの本当の意味」とは

フォーラムの最後となる講演会の時間となりました。講師は、**上田情報ビジネス専門学校（通称：ウエジョビ）の比田井和孝先生**です。

「ウエジョビは、生徒たちに資格を取得してほしいんじゃないありません。就職してほしいんじゃないありません。幸せになってほしいんです！」

比田井先生の元気な声が場内に響き渡り、いよいよ『比田井和孝講演会 飯田市キャリア教育推進フォーラムスペシャル』がスタートです。

「6年前まで、私は、生徒たちに“資格を取ってほしい”“いい会社に就職してほしい”と思って仕事をしていました。でも、6年前にある方と出会って、考え方が変わりました。いくら資格を取っても、どんなにいい会社に就職しても、果たしてそれで幸せな人生と言えるんでしょうか。」

ウエジョビには「就職対策授業」という授業があるそうです。でもこの授業では、就職するためにどんな勉強をしたらよいかという話は全くしないそうです。

「資格を取るためにとか就職するためにではなく、就職した後のことについて話をしています！その中で、生徒たちに3つの約束をしています。それは “あいさつ” “そうじ” “素直”。これを、徹底的に一生懸命やりなさいと言っています」



講演の中盤では、先生が大好きだという「本田宗一郎」さんのエピソードや、ある鉄道会社の社長のお話などを織り交ぜながら、働く目的が、“自分がもらうこと”になっている人と“他人に与えること”になっている人との違いで、人生が大きく変わることについてお話いただきました。

また先生は、この講演の中で「幸せ」について何度も触れられていました。

「周りから何かをもらうことばかり考えている人は、身の周りで起こることを必ず他人のせいにしてしまいます。そ

ういう人生は不幸です。もらうのではなく、与えようとするのが大切です。私たちは、“**周りの人たちを幸せにする仕事ができる人こそが、幸せになれる**”と考えています。周りの人たちを幸せにするために、自分への見返りなど一切期待せず他人のために何かを与えることができれば、必ず自分に返ってきますよ」

この世には「与える者は与えられる」法則というものがある。「**やり方**」の前に、**ココロの「あり方」が大切**であると強調されました。

「ウエジョビでは、“普段やらなければいけないことを、徹底的に誠意を持ってやりなさい！しかも、簡単なことほど”と教えています。この“簡単なこと”が、とても難しいんですけどね。でも、簡単なことをバカにする人で、難しい仕事ができる人を、私は見たことがありません！」



私たち大人も、背筋が伸びるようなお話をさせていただき、自分自身の心のあり方、そして生き方を省みる事ができたように思います。

参加者の皆さんの感想の一部をご紹介します。

- **ふるえました。人を連れてこなかったことを後悔しました。**
- **「人に与えるものは与えられる」周りの人を幸せにするのが、仕事の本当の目的。これからもういったお話を続けてください。**
- **お金のために働くのはみじめだと思いました。泣けました。久しぶりに。もっと若いうちに聞けたらよかったのに。**
- **先生が話してくれたことが、深く心に伝わってきました。とても感動しました。（中学生A）**
- **毎日学校でしている掃除、挨拶だけど、とても深いものだとわかったので、毎日人のために感謝と思いやりの心を忘れずにやりたいです。（中学生B）**

比田井先生の言葉は、皆さんのココロの深いところに響いたようですね。参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

『夢の霜月祭の舞台へ』

～地域の一員となって祭りを盛り上げました～

浜井場小学校5年生の「ふるさと生活体験」も四回目を迎えました。今回は、子どもたちがとても楽しみにしていた「霜月祭体験」です。

遠山郷の霜月祭は、12月に11の神社で開催されます。1日（火）には、先陣を切って木沢中立の稲荷神社で霜月祭が行われました。その霜月祭に浜井場小学校の子どもたちが参加しました。



子どもたちはこの日に備え、木沢の人たちと交流を深めてきました。霜月祭の歴史を教えてもらったり、霜月祭に演奏する笛の曲も教えてもらいました。また演奏する笛は、木沢の方からプレゼントされたものです。

午後2時30分。稲荷神社ではすでに祭りが始まっていました。早速、その祭りに加わり笛と太鼓の演奏です。37名のそろった笛の音色が神社の中に響き渡り、一挙に神社の中が賑やかになりました。木沢の人たちからは、「うまいもんだなあ、いつ練習したのかな?」「子どもたちは覚えるのが早いなあ」などの話が聞こえてきます。

午後8時。祭りもクライマックスへ近づいてきました。神社の中は昼間と違い大勢の人でなかなか身動きが取れません。そんな中で、木沢の皆さん方が子どもたちの演奏場所を確保してくれます。神社の中は、昼間の静かな舞と違い、動きが激しくなっています。夕食を食べて元気になった子どもたちの笛の音が、一層牙え渡ります。

祭りの終盤、いよいよ4人の若者が「竈（かまど）」の周辺を飛び回る「四面（よおもて）」が始

まりました。子どもたちは観客の人たちと共に、「ヨーッセ!ヨーッセ!」の掛け声で囃し立てます。若者たちは、声をかけてくる人たちをめぐって突進、手前で飛び跳ねては体を投げ出し、近くの大人たちがそれを受け止めません。ものすごい迫りに、子どもたちは目を丸くしています。そして、この場の雰囲気慣れてきた子どもたちも、元気に「ヨーッセ!ヨーッセ!」と囃し立てます。そのうちに、木沢の人に押し出されたのか、子どもが四面に参加。みんなに大きな声で囃し立てられ元気良く飛び跳ね、見ている人たちを喜ばせてくれました。



祭りが終わるまで次々と続く神事を、子どもたちはいつまでも興味深く見守っていました。

子どもたちに笛を作ってくださった松下さんは、「**自分がつくった笛で、自分が教えた子どもたちが、演奏する中で面を被ることができた。今までの人生の中で最高の気分のお祭りだ。うれしくて仕方がないよ**」と感慨深げに話しておられました。

木沢の皆さんの温かなご配慮で、浜井場小学校の子どもたちが霜月祭に参加することができました。

浜井場小学校の子どもが、「木沢の子ども」になりきった思い出に残る1日となりました。

親子ちょうちん作り体験のお知らせ

伝統の手仕事を守り続ける職人さんに、親子で弟子入りしてみませんか?

今回は、世界に一つだけの“マイちょうちん”です。

- 【日時】 平成22年3月23日（火）9:00～16:00
- 【場所】 綿屋提灯店（長姫町）
- 【対象】 小学校高学年とその保護者
- 【定員】 3組
- 【参加費】 1組 1,500円
- 【申込み】 電話・FAX・地育力どっとネットで
- 【締切り】 3月10日（水）



編集・発行：飯田市教育委員会

生涯学習・スポーツ課 地育力向上係

TEL 0265-22-4511（内線3571） FAX 0265-22-7969

HP <http://chiikuryoku.net>（地育力どっとネット）

E-mail shougai@city.iida.nagano.jp

「地育力」向上のための情報サイト「地育力どっとネット」をぜひご覧ください。 <http://chiikuryoku.net>